

資料 3 - 3

平成30年度第3回  
関東地方整備局  
事業評価監視委員会

# 河川環境整備における 費用対効果分析について

平成30年11月20日  
国土交通省 関東地方整備局

# 河川環境整備について

## 河川環境整備の概要

### 総合水系 環境整備事業

#### 水環境

##### 【河川の水質改善】

浚渫、浄化施設整備  
浄化導水 等

整備前



整備後



#### 自然再生

##### 【生物生息環境の創出】

魚道整備、湿地再生  
河畔林整備 等

整備前



整備後



#### 水辺整備

##### 【水辺空間の利活用推進】

河川管理用通路  
親水護岸整備 等

整備前



整備後



# 費用対効果分析の基本的な考え方

## (1) 河川に係る環境整備の評価手法

○河川に係る環境整備の便益は、事業実施によって**変化する効用を貨幣換算化したもの**としてとらえる。

○河川環境は、**複数の環境要素によって形成**されており、水辺の散策のような利用価値や貴重な自然環境のような非利用価値があるため、このような**利用価値、非利用価値を一括して評価可能なCVM(仮想的市場評価法)を採用**



### CVM(仮想的市場評価法)

$$\text{便益} = \text{WTP(支払い意思額)} \times \text{受益世帯数} \times \text{評価対象期間}$$

WTP(支払い意思額): アンケート調査により事業実施の有無の効果に対する支払い意思額を調査

受益世帯数 : 予備調査により、受益範囲を設定し、範囲内の世帯数を算定

評価対象期間 : 整備期間+50年間

参考 『河川に係る環境整備の経済評価の手引き※[平成22年3月(平成28年3月一部改定)]』

# 費用対効果分析の基本的な考え方

## (2) 費用便益比の算出方法

